

平成 25 年度 持続可能な地域づくりを担う人材育成事業に係る ESD の視点を取り入れた環境教育プログラムの公募【選定結果】

選定された 20 プログラム

No.	団体名	プログラム名
1	株式会社ヌールエ デザイン総合研究所 「動物かんきょう会議プロジェクト」	動物になって考えよう！ せかい・動物かんきょう会議ワールドカフェ
2	一般社団法人 四日市大学エネルギー環境教育研究会	「5つのものさし」で、地域の川や生きものを守っていく！ ～そして、自分の生活と関連づけて暮らしに生かす～
3	国立大学法人愛媛大学	みんなでつくろう！コミュニティファーム ～まちなかの公園が地域の農園に！？～
4	特定非営利活動法人きんたろう倶楽部	呉羽丘陵たんけん隊
5	特定非営利活動法人 くすの木自然館	学校周辺ゴミ調査隊 － 地域の未来のためにどんな大人になりたいか －
6	教育開発研究会	水の総合学習会
7	おむつなし育児研究所 東京サロン	日本に古くから伝わる赤ちゃんのお世話で美しい地球を救おう
8	特定非営利活動法人 エーピーエスディ(APSD)	食から考える世界・地球環境と私たち
9	横浜市立永田台小学校	「生ゴミワーストワン脱出大作戦」
10	ひろしまESD推進プログラム研究会	食べ物のムダをなくそう ～もったいない～ から学ぶ環境と国際と平和教育プログラム
11	豊田市立土橋小学校	目指せ！特級エコガイド ～冬の校舎の秘密劇的改造ビフォーアフター～
12	三環の会(なごや環境塾三期生の会)	これからのエネルギー生活を考えよう ～電気に頼りすぎた生活を見直そう～
13	国立大学法人宮城教育大学 小金澤研究室(仙台いぐね研究会)	いぐねの学校
14	東京都稲城市立稲城第一小学校	森林プログラム(いなぎの森100年プロジェクト)
15	NPO法人環境ネットワークくまもと	環境教育連続講座「くらしマイレージ講座」
16	アイシン精機株式会社	地球の仲間たちの声を聞こう！
17	勝山市立荒土小学校	里地の水環境を科学的にとらえ、地域に発信する ESDプログラム
18	小野学園女子中学・高等学校	ホテルを通して里山環境と里地環境を考える ～中学生による生物多様性を考えた環境復元・再生 プログラム～
19	兵庫県立北須磨高等学校	諸外国(主としてサモア)から学ぶESD
20	一般社団法人 アーバンネイチャーマネジメントサービス	谷津干潟ジュニアレンジャー

ESD プログラムの概要

1.

地方	関東	都道府県	東京都
団体名	株式会社ヌールエ デザイン総合研究所 「動物かんきょう会議プロジェクト」		
プログラム名	動物になって考えよう！ せかい・動物かんきょう会議ワールドカフェ		
対象学年層	小学校高学年		
プログラム概要	<p>子どもたちが様々な動物の役割を演じながら地球環境等の課題解決に向けた議論をする活動等を通して、他者の立場を理解し、多様性を認めて行く態度、多面的に考える力を身につけることを主なねらいとしている。</p> <p><概要></p> <p>① 動物に関する調べ学習 自分が何の動物の役をするかを決めた上で、インターネットや動物園の飼育員に対するインタビュー等により、動物の生息場所、生態に関する調査を行う。</p> <p>② 動物になりきって議論（ワールドカフェ形式） 森、ゴミ、海・川等の環境問題について、議論のテーマや観点を決め、それぞれが動物になりきってグループごとに議論を行う。</p> <p>③ まとめ 議論の結果や議論の際に気付いたこと、感じたことなどを振り返り、相互理解を深める。</p> <p>※場面により、申請団体の DVD（要購入）を使用できる。</p>		

※ここに掲載するプログラム概要は、応募申請されたプログラムに基づいてまとめたものであり、今後修正されることもある。

2.

地方	中部	都道府県	三重県
団体名	一般社団法人四日市大学エネルギー環境教育研究会		
プログラム名	「5つのものさし」で、地域の川や生きものを守っていく！ ～そして、自分の生活と関連づけて暮らしに生かす～		
対象学年層	小学校中学年		
プログラム概要	<p>「5つのものさし」を使って川の調査活動を行うことを通して、自然と人間の暮らしの関係を考え、自分の暮らしに生かしていく力を育むことをねらいとしている。</p> <p><概要></p> <p>① 川の調査 「5つのものさし」=1.自然のすがた、2.ゆたかな生きもの、3.水のきれいさ、4.快適な水辺、5.地域とのつながり をつかって、川の調査を行ない生きものと自然との関係に気づく。</p> <p>② 川の生態系とその変化についての学習 異常気象による豪雨や乱獲による影響を考えたり、異常気象の原因や地球温暖化のメカニズムを学び、生きものに与える影響を知る。</p> <p>③ 生活のあり方を考え、発表する 自分たちの生活を「5つのものさし」を使ってふりかえり、これからの生活の中でどのような行動をしたらよいかを考え、保護者を招いて発表会を行う。その後、各家庭で暮らしの中で実践できることを家族で話し合い、行動につなげる。</p>		

※ここに掲載するプログラム概要は、応募申請されたプログラムに基づいてまとめたものであり、今後修正されることもある。

3.

地方	中国四国	都道府県	愛媛県
団体名	国立大学法人愛媛大学		
プログラム名	みんなでつくろう！コミュニティファーム ～まちなかの公園が地域の農園に！？～		
対象学年層	小学校高学年		
プログラム概要	<p>まちなかの公園や校庭の一部を、地域住民と児童達が共に野菜を育てるコミュニティファームとして活用し、食と農、防災活動等を通じて、地域共生のかたちを考え実践する学びの場を創出し、自らが地域貢献に主体的に取り組む態度を育むことをねらいとする。</p> <p><概要></p> <p>① 地域の協力を得て畑作り 公園や校庭に、地域の方々と一緒に目的を意識しながら農園を作り、芋や野菜を育てる。</p> <p>② 収穫と炊き出し訓練 収穫した野菜は炊き出し訓練に活用し、地域防災力の向上に役立てると共に、命を守る上での食や農の大切さについて認識を深めるきっかけとする。</p> <p>③ 防災会議の開催 コミュニティファームを一緒に作ってくれた地域の人たちに対して感謝の気持ちを表すとともに、地域で起こる可能性のある災害を想定し、公園や校庭が防災拠点としてどのような役に立てるか、どのような場所にしていけばよいかを考える場をつくる。</p>		

※ここに掲載するプログラム概要は、応募申請されたプログラムに基づいてまとめたものであり、今後修正されることもある。

4.

地方	中部	都道府県	富山県
団体名	特定非営利活動法人きんたろう倶楽部		
プログラム名	呉羽丘陵たんけん隊		
対象学年層	小学校中学年		
プログラム概要	<p>里山における探検活動を通して、多様な自然環境の認識、好奇心、探究する力を育むとともに、里山の自然、歴史、生活文化にも関心を広げる。また環境 NPO、市民団体、自治振興会等の協力を得て交流・協働することを通して、コミュニケーション力、共感力、地域の自然環境に親しむ意欲と態度を育む。</p> <p><概要></p> <p>① 里山の探索</p> <p>事前に里山の自然や歴史、保全活動および探索方法等について概略を学んだ後、実際に里山に入り、少人数のグループに分かれて、植物や小動物を観察したり、里山の恵みを味わうなどして、多面的な体験をしつつ、記録をとっていく。</p> <p>② 発見したことを発表する</p> <p>探検した成果を大きな地図などにわかりやすくまとめ、関わった地域・団体の方々に対して報告する。</p> <p>※タブレット端末やデジカメを活用すると効果的な発表につながる</p>		

※ここに掲載するプログラム概要は、応募申請されたプログラムに基づいてまとめたものであり、今後修正されることもある。

5.

地方	九州	都道府県	鹿児島県
団体名	特定非営利活動法人 くすの木自然館		
プログラム名	学校周辺ゴミ調査隊 － 地域の未来のためにどんな大人になりたいか －		
対象学年層	小学校高学年		
プログラム概要	<p>学校周辺の「ゴミ拾い調査活動」を通して、地域の自然環境を再認識し、自己のかかわりについて考えることで、道徳的・倫理的規範、地域の担い手としての自覚と責任感を育むことをねらいとしている。</p> <p><概要></p> <p>① 地域への関心の喚起 地域の自然や文化について知り、生活との関わりを認識する時間を持つ。</p> <p>② 地域実態調査活動 学校周辺のゴミを拾い、その量を知り分析する。</p> <p>③ 地域環境計画の作成 調査の結果を踏まえ、子どもたちの目線でごみを減らす対策を考え、地域に対して「自分達が今出来ること」を提案する。</p> <p>④ 地域環境保全主体としての活動 環境計画をもとに、対策を実行し、その活動の結果をふりかえる。最後に保護者や地域住民へ学習の成果を報告する。</p>		

※ここに掲載するプログラム概要は、応募申請されたプログラムに基づいてまとめたものであり、今後修正されることもある。

6.

地方	北海道	都道府県	北海道
団体名	教育開発研究会		
プログラム名	水の総合学習会		
対象学年層	中学校		
プログラム概要	<p>水に関して横断的、総合的に学ぶことを通して、児童生徒自ら課題を見つけ、学び、問題解決力を育成すること、そして水にかかわる問題解決に主体的に取り組む態度を育むことをねらいとする。</p> <p><概要></p> <p>① 水についての体験学習</p> <p>地球上の水循環、水の物質的特性、水の防災、水の利用等について、環境学習プログラム「プロジェクトWET」のアクティビティなどの環境教育プログラムを活用しながら体験的に学ぶ。また、身近な衛生や生活に結びつけ、水を取り巻く様々な課題に対する対策を考える。</p> <p>② 提案づくり</p> <p>グループ討論によって学習を総括し、水を取り巻く問題解決に向け、自分たちに何ができるかを考え、提案をまとめる。</p> <p>※実施場所は、校舎内の各教室、体育館、屋内ホール、理科室等様々な場所を活用して実施する。</p>		

※ここに掲載するプログラム概要は、応募申請されたプログラムに基づいてまとめたものであり、今後修正されることもある。

7.

地方	関東	都道府県	東京都
団体名	おむつなし育児研究所 東京サロン		
プログラム名	日本に古くから伝わる赤ちゃんのお世話で美しい地球を救おう		
対象学年層	中学校		
プログラム概要	<p>赤ちゃんが初めて包まれる「おむつ」で身の回りの消費行動を見直し、多様性を認め合いながら生きる力を育むこと、未来を予測しながら相手を思いやり、生命を尊重する心を育てることをねらいとしている。</p> <p><概要></p> <p>① 紙おむつを知る 紙おむつの素材や大量生産・大量消費されている紙おむつにかかわる自治体のごみ問題を調べ未来を予測する。</p> <p>② 外国のおむつ、昔のおむつなどを学ぶ 外部講師を招いて外国の赤ちゃんのこと、昔の日本の情緒の安定した赤ちゃんのことなどを学ぶ。また、布おむつと紙おむつの吸水の速度や使い心地などを実験等を通して比較し、相手の立場になりおむつを多面的に捉える。また、古いゆかたやさらしから輪おむつをつくってみる。</p> <p>③ 美しい地球のために、未来の自分たちが赤ちゃんをどう育てたいかを考える。</p>		

※ここに掲載するプログラム概要は、応募申請されたプログラムに基づいてまとめたものであり、今後修正されることもある。

8.

地方	関東	都道府県	神奈川県
団体名	特定非営利活動法人エーピーエスディ（APSD）		
プログラム名	食から考える世界・地球環境と私たち		
対象学年層	小学校高学年		
プログラム概要	<p>普段身近には感じづらい地球規模の問題（南北問題や資源の問題）を、身近な食べ物（お米）から考えることで、自分たちとの繋がりを意識し、自分たちがどのようなことができるかを考えていく力を育むことをねらいとする。</p> <p><概要></p> <p>① お米と農業について学ぶ お米づくりの過程や苦労、農業が抱えている課題などを資料や農家の方へのヒアリングを通して学ぶ</p> <p>② 世界の食糧に関して学ぶ 食べ残しから世界の食糧の不均衡、先進国と途上国の格差を学ぶ。また、途上国からのゲスト講師や写真教材等を活用するなどして、その国の食と農業についての魅力と課題を多面的に学ぶ。</p> <p>③ できることを考え、発表する 地球全体で使える資源の有限性について学び、自分たちがこれからの生活で配慮していきたいことを考え、発表する。</p>		

※ここに掲載するプログラム概要は、応募申請されたプログラムに基づいてまとめたものであり、今後修正されることもある。

9.

地方	関東	都道府県	神奈川県
団体名	横浜市立永田台小学校		
プログラム名	「生ゴミワーストワン脱出大作戦」		
対象学年層	小学校中学年・特別支援学級		
プログラム概要	<p>地域のごみの量を知ることがきっかけに、地域が抱える課題を認識し、学校で取り組むことによって身の周りを多面的に振り返り、何ができるかを考え、実践（体験）し、広く地域に発信していくことで、自己有用感や自己肯定感を高め、自らが持続可能な社会への変化の担い手となる意識を育むことを目指している。</p> <p><概要></p> <p>① 地域の生ごみの状況を知る 自治体の広報誌などから、生ゴミが多いなどの地域の課題があることを知る。</p> <p>② アンケート調査からアイデア集づくり 家庭や地域の人に、生ゴミに関するアンケートを行い、生ゴミを減らす工夫をいろいろと考え、アイデア集にまとめる。</p> <p>③ 実践から発表 エコクッキングや生ゴミの水切り、コンポストの利用など、アイデアのいくつかを自分たちで実践し、その結果を学校のみんなや地域の方々に発表する。</p>		

※ここに掲載するプログラム概要は、応募申請されたプログラムに基づいてまとめたものであり、今後修正されることもある。

10.

地方	中国四国	都道府県	広島県
団体名	ひろしま ESD 推進プログラム研究会		
プログラム名	食べ物のムダをなくそう ～もったいない～ から学ぶ 環境と国際と平和教育プログラム		
対象学年層	中学校		
プログラム概要	<p>お弁当の食材をきっかけに、日本の食の問題にとどまらず、世界の飢餓、貧困、紛争などに目を向け、資源の有限性、平和の大切さを総合的に学び、現在の生活を見直していく気づきを得ることをねらいとする。</p> <p><概要></p> <p>① 滋くんのお弁当箱 原爆で黒焦げになったお弁当箱を導入として、当時と今のお弁当の食材に目を向け、「食」と「命」と「平和」のつながりに関心を持つ。</p> <p>② 日本と世界の食糧事情を知る 自分のお弁当から日本の食が大きく輸入に頼っていることをふまえ、そこから日本や世界の食糧事情（食品ロス、飢餓、食料自給率など）を学ぶ。また、滋くんのお弁当やスイトンなど戦時中の食を体験し、現在の紛争地での食糧事情なども考える。</p> <p>③ 私たちにできることを考える</p>		

※ここに掲載するプログラム概要は、応募申請されたプログラムに基づいてまとめたものであり、今後修正されることもある。

11.

地方	中部	都道府県	愛知県
団体名	豊田市立土橋小学校		
プログラム名	目指せ！特級エコガイド ～冬の校舎の秘密劇的改造ビフォーアフター～		
対象学年層	小学校高学年		
プログラム概要	<p>冬の校舎を教材にし、省エネに関する工夫などを学び、エコの視点から環境改善計画を子どもたち自身が考え、実行し、これを発表することにより、学ぶ意欲や自ら行動する力を育むことをねらいとしている。</p> <p><概要></p> <p>① 冬の校舎観察 冬の校舎の温度測定を子どもたちが行き、どこが温度が低いかを調べる。</p> <p>② 冬を温かく過ごす工夫調べ なぜ寒いのか、改善方法はないかを考え、校舎の中の寒い部分を温かくするための改善計画を立てる。(風を防ぐ、新聞など手に入れやすい断熱材の利用など、生活の中から応用できるものを考え、友達と相談して決めていく。)</p> <p>③ 「エコガイド」発表会 改善計画を実行した後は、改善前・改善後の温度を測定し、なぜ暖かくなったのかをみんなで考える。こうして理解したことを「エコガイド」というシナリオに取りまとめ、クラス内や学校内外で発表する。</p>		

※ここに掲載するプログラム概要は、応募申請されたプログラムに基づいてまとめたものであり、今後修正されることもある。

12.

地方	中部	都道府県	愛知県
団体名	三環の会（なごや環境塾三期生の会）		
プログラム名	これからのエネルギー生活を考えよう ～電気に頼りすぎた生活を見直そう～		
対象学年層	小学校高学年		
プログラム概要	<p>電気に頼りすぎた豊かな生活を見直し、資源に限りがある中でこれからのようにエネルギーを使った生活をしていったらよいかを考えることにより、批判的に考える力、多面的に考える力、進んで参加する態度などを養うことをねらいとしている。</p> <p><概要></p> <p>① 暮らしとエネルギーの現状を知る エネルギーについて自給的な生活を行っている人々の姿を紹介し、「エネルギーと生活」に対する関心をもつ。また自分たちがどれくらいの電気を使っているか、家庭で使っている電気器具や電力使用量を調べ、現状を把握する。</p> <p>② エネルギーと環境負荷を学ぶ 電化製品の歴史と電力使用量の増加に気付き、エネルギー源の枯渇や発電による廃棄物の問題を認識して、発電による負荷を地球にかけない方法はないかを考える。</p> <p>③ クラス全体でこれからの私たちの生活のあり方について話し合う。</p>		

※ここに掲載するプログラム概要は、応募申請されたプログラムに基づいてまとめたものであり、今後修正されることもある。

13.

地方	東北	都道府県	宮城県
団体名	国立大学法人宮城教育大学 小金澤研究室（仙台いぐね研究会）		
プログラム名	いぐねの学校		
対象学年層	小学校中学年、小学校高学年、中学校		
プログラム概要	<p>いぐね（屋敷林）や里山等を活動場所にして、自然の恵みや昔の暮らしを学びながら、自然環境との循環とつながりを体験し、考察力や観察力を育むことをねらいとする。</p> <p><概要></p> <p>① いぐねの自然と昔の暮らし体験 古くからの農家を舞台に、田んぼの生き物調査、稲刈り、足ふみ脱穀機による脱穀作業、餅つき、蒸し籠での炊飯、石臼での黄な粉作りなどから、自然の恵みや昔の暮らしのいくつかを体験し、古くからの人間の知恵が、現在につながっていることを理解する。</p> <p>② 産物直売所体験 直売所で買い物体験や販売体験、生産者ヒアリング調査などを行い、売る側の立場から、農林水産物の生産～流通～消費～廃棄のプロセスを学ぶ。</p> <p>③ これらの経験を生かして、持続可能な社会の在り方を考え、発表する。</p> <p>※いぐねのない地域は、里地里山などで同様の活動が可能</p>		

※ここに掲載するプログラム概要は、応募申請されたプログラムに基づいてまとめたものであり、今後修正されることもある。

14.

地方	関東	都道府県	東京都
団体名	東京都稲城市立稲城第一小学校		
プログラム名	森林プログラム（いなぎの森100年プロジェクト）		
対象学年層	小学校高学年		
プログラム概要	<p>森林を1つのテーマとして様々な体験を行うことにより、「自然」に対する児童の認識に良い変化をもたらし、将来的に持続発展的な生き方や社会についての考えを深めることをねらいとしている。</p> <p><概要></p> <p>① 森に親しむ 五感を使って森林に触れる体験ゲーム、木についての理解を深めるクイズなどを行う。</p> <p>② 森の仕組みを知る 光合成や二酸化炭素、木の炭素量に関する知識などを学び、そこから地球温暖化などとの関係についても考えていく。</p> <p>③ 学んだことをまとめて発表 プレゼンテーションソフトを用いてスライドショーを作成し、発表する。</p> <p>※プログラムの最初と最後に「自然に対するイメージマップ」を作成し、児童の認識の変化を見る。</p> <p>※森林での体験活動については、大学など外部指導者と連携する</p>		

※ここに掲載するプログラム概要は、応募申請されたプログラムに基づいてまとめたものであり、今後修正されることもある。

15.

地方	九州	都道府県	熊本県
団体名	NPO 法人環境ネットワークくまもと		
プログラム名	環境教育連続講座「くらしマイレージ講座」		
対象学年層	中学校		
プログラム概要	<p>身近な材料を活用しながら暮らし方を見直し、実践するという「くらしマイレージ」の考え方を題材に、エネルギーや食に焦点を当てて現状を把握し、ワークショップ体験等を通じて私たちの「暮らし方」を見つめ直す視点を養うことをねらいとしている。</p> <p><概要></p> <p>① 環境問題やフード・マイレージの基礎知識 基礎知識提供と、チェックシート形式のアンケートを使って現状の暮らしを把握する。</p> <p>② フード・マイレージや自然エネルギー、食の地域循環の体験 お弁当を題材にマイレージ調べを行うワークショップ体験や、農場見学、自然エネルギー施設の見学などを実施し、地産地消（地域循環）やCO2削減を体感する。</p> <p>③ くらしマイレージアクションプラン グループに分かれ、感じた課題を出し合って今後の自分たちのアクションプランをつくり、発表する。</p> <p>※フード・マイレージは、食べ物の産地から消費地までの輸送に伴う環境負荷を数値化する考え方。体験ワークショップはキットを提供することができる。</p>		

※ここに掲載するプログラム概要は、応募申請されたプログラムに基づいてまとめたものであり、今後修正されることもある。

16.

地方	中部	都道府県	愛知県
団体名	アイシン精機株式会社		
プログラム名	地球の仲間たちの声を聞こう！		
対象学年層	小学校高学年		
プログラム概要	<p>森・水辺・くらし・産業の中から地域特性に合ったテーマを選び、人の暮らしと自然とのつながりを学び、感じ、環境に配慮した行動を実践していくことにより、あらゆる生き物と共存していることを実感して取り組みを継続していけるようにすることをねらいとしている。</p> <p><概要></p> <p>① 座学・体験 選んだテーマの背景や知識を学び、学校外に出て実際の現場を体験学習する。</p> <p>② シンパシー・ワークショップ 自分たちが「人間」や「動物」になってゲームを行い、資源の有用性やそれぞれの立場・関わり合いを共感する。</p> <p>③ エコアクション 日々の暮らしを見直し、学校や家庭で取り組むエコアクションを一人ひとりが決めて紙に貼り出し、実践する。</p> <p>④ エコトークセッション 学んで実践した成果を「エコ宣言」として地域に向けて発表する。</p>		

※ここに掲載するプログラム概要は、応募申請されたプログラムに基づいてまとめたものであり、今後修正されることもある。

17.

地方	中部	都道府県	福井県
団体名	勝山市立荒土小学校		
プログラム名	里地の水環境を科学的にとらえ、地域に発信する ESD プログラム		
対象学年層	小学校中学年		
プログラム概要	<p>身近な水環境に注目し、赤とんぼの生態を学び、調査活動を通して地域の魅力や問題点を発見し、地域の持続的発展のための提案作成や実践といった社会参画を通して、地域の自然環境に誇りを持ち、自分たちにそれを守る力があることを認識することをねらいとしている。</p> <p><概要></p> <p>① 赤とんぼについて学ぶ 赤とんぼの生態や現状についてテキストやインターネットから基礎知識を学ぶ。</p> <p>② 赤とんぼの調査 研究者から水田における赤とんぼ調査の説明を受けるなどした後、登校時に赤とんぼの羽化殻を回収したり、プール清掃時にトンボの幼虫の種の同定を行ったり、昼休みに赤とんぼの数を数えて記録するなどの活動を行う。</p> <p>③ 調査 結果の分析と発信 活動や調査の結果を地域の文化祭等で発表する。</p> <p>※授業以外に、昼休み、登校時などの授業時間外も利用する。</p> <p>※①のテキストは勝山市が提供可能</p>		

※ここに掲載するプログラム概要は、応募申請されたプログラムに基づいてまとめたものであり、今後修正されることもある。

18.

地方	関東	都道府県	東京都
団体名	小野学園女子中学・高等学校		
プログラム名	ホタルを通して里山環境と里地環境を考える ～中学生による生物多様性を考えた環境復元・再生プログラム～		
対象学年層	中学校		
プログラム概要	<p>ホタルやビオトープに生息する生物の飼育観察を通して、ホタルの自生のしくみや生物の生息する環境の大切さを理解し、生物多様性を考えた環境復元・再生の取り組みを実施する事で、探究心や問題解決力を育むことをねらいとする。</p> <p><概要></p> <p>① 学校内でのホタルの飼育観察 ホタルが生育する環境条件を学び、人工飼育の環境設定などを行う。</p> <p>② 里地環境と里山環境の観察実習 近隣の自然再生観察園やビオトープを訪れ、里地環境における川の流れや水の様子、動植物の様子などを記録する。またホタルの自生地である里山を訪れ、同様の観察や飛翔確認を行ったうえで両者の違いを知り、多面的な角度からホタルの自生に向けた取り組みに必要なことを検討する。</p> <p>③ 取り組みのまとめと展示発表 ※近隣でホタル復活の活動をしている拠点がある場合は、学校での飼育ではなく、その活動に参加することで実施することも可能。</p>		

※ここに掲載するプログラム概要は、応募申請されたプログラムに基づいてまとめたものであり、今後修正されることもある。

19.

地方	近畿	都道府県	兵庫県
団体名	兵庫県立北須磨高等学校		
プログラム名	諸外国（主としてサモア）から学ぶ ESD		
対象学年層	中学校		
プログラム概要	<p>伝統的な生活様式を残す海外の国（申請案件ではサモア）をひとつ取り上げ、日本の生活や文化、課題などと比較・考察することにより、今までと違った視点に立ってものを見る力を養うことをねらいとしている。</p> <p><概要></p> <p>① サモアとの出会い 伝統的な住居、料理、服装などを写真で紹介し、暑さを防ぐための工夫や特徴、地産地消の意味などを考え学ぶ。</p> <p>② サモアのゴミ問題、電力問題 日本の都市部や大量生産大量消費型の生活様式と比較して、問題点を検討する。</p> <p>③ サモアと日本を比較する 伝統料理、高層ビル、発電方法など、サモアと日本の様々な要素を「持続可能かどうか」の視点で分け、それがサモアのものか日本のものか確認することで、持続可能な発展のために何が必要かを考える。これからの暮らしや開発の在り方について考える。</p>		

※ここに掲載するプログラム概要は、応募申請されたプログラムに基づいてまとめたものであり、今後修正されることもある。

20.

地方	関東	都道府県	千葉県
団体名	一般社団法人アーバンネイチャーマネジメントサービス		
プログラム名	谷津干潟ジュニアレンジャー		
対象学年層	小学校高学年		
プログラム概要	<p>干潟の生きもの調査や干潟の保全活動などの体験活動を通して干潟の役割や重要性を学び、国内外の湿地に関わる人たちとの交流などを通して、自然への関心を高め、干潟保全に主体的にかかわる子どもを育成することをねらいとする。</p> <p><概要></p> <p>① 干潟を知る～守る活動 干潟の生き物調査や野鳥のカウント調査、ごみ拾いや生き物のすみかづくりなどを通して、干潟をよりよく知り、愛着を育む。</p> <p>② 干潟を伝える 干潟の魅力や課題を伝えるための「生き物の見どころカード」や壁新聞などをつくり、人に伝えることで、やりがいを感じながら自然の大切さを再認識する。</p> <p>③ ラムサール条約登録湿地とつながる 国内外の干潟に関わる人たちとのインターネット電話を使った交流活動などを通して、国際条約の意義についても学びを深める。</p>		

※ここに掲載するプログラム概要は、応募申請されたプログラムに基づいてまとめたものであり、今後修正されることもある。